

2013.9.20

こんにちわ～るど

No.47

半田国際交流協会だより

1月28日
一宮七夕まつり見学に行きました！

日本語学習生と先生で、日本で有名な七夕まつりの見学に行きました。参加者は、中国、ベトナム、カンボジア、ペルー、アメリカ、日本の計32名でした。バスの中では、七夕のお話や歌を学習し、会場では、豪華な七夕飾りや縁日を楽しみました。



7/28 七夕まつり

2012年11月に
日本に来ました。



「たなばたまつりについて」

チキンティリン(ベトナム)

私は センタの先生 と みんな と いっしょに遊びに いって 楽しかったです。特に 私は きれいなところ や 日本の文化 が もっと わかりました。先生 は みんな に ほんの 古いの話を 説明してくれました。

私は 3年間 だけ 日本 に 住みますから その日 本当に きれいなきねん です。

◆7月22日～8月11日

姉妹都市ミッドランドより交換生徒3人が来半しました。

…掲載ページ・P2～P5



◆7月8日～7月17日

フータン王国より生徒4人と先生1人が来半しました。

…掲載ページ P6



—今後の予定—

■10月6日（日）
日本語学習生対象 京都バス旅行

日本の文化・歴史を学びます。

■11月24日（日）
こんにちわーるどフェスティバル
時間 10:00-15:00 場所 雁宿ホール講堂

テーマはワールドカフェ♪
みんな遊びに来てね！

第3作目発刊予定（11月中旬）

半田市出身の童話作家

新美南吉 生誕100年を記念して

英訳絵本「手ぶくろを買いに・
子どものすきな神さま」



第1作目「でんでんむしのかなしみ」(他2作掲載)、
第2作目「牛をつないだ椿の木」(他1作掲載)に引き
続き、第3作目「手ぶくろを買いに・子どものすきな
神さま」を発刊いたします。国際交流や、英語学習教
材として、ぜひお役立てください。

問合せ先：半田国際交流協会 TEL:0569-26-1929

ミッドランドから高校生来半！

姉妹都市のアメリカ ミッドランド市とは、1981年6月の姉妹都市提携の翌年から、隔年で相互に交換生を派遣しています。今年は受入れの年で、3名の高校生が来半し、7月22日から8月11日の3週間、それぞれ3家庭でホームステイをしながら、日本の文化・習慣を学びました。この受入れ事業は半田市より委託を受けて行いました。



7/23



▲歓迎会。Welcome to Handa City !



7/28

▲ニック君とスカウトさんは、半田国際交流協会 日本語教室の皆さんと一緒に七夕まつり見学に参加しました。



7/29
ホスト交代



▲高校生交流会。自己紹介やゲームで仲良くなった後、トヨタ工場に見学に行きました。



8/10

▲送別会。ケラさんとホストの竹内明日香さんとのクラリネット演奏披露や、津軽三味線の演奏と体験などで盛り上りがありました。

7/22

到着



7/24

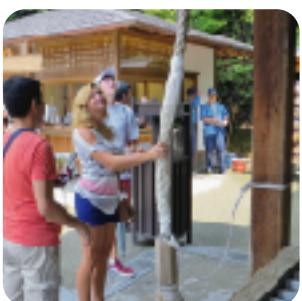
▲ニック君(左)、スカウトさん(中)、ケラさん(右)が無事セントレアに到着しました！



7/30

8/5
ホスト交代

8/6



▲松石会長主催のBBQパーティ。すべてのホストが参加し、わきあいあいと楽しみました。



8/11
出発

▲見送りの日。また会おうね！

日本ってどんな国？

ミッドランドの高校生3人に聞いてみました。

What Japanese food do you like to eat again?

Sushi, Rice & Curry, Steak,
Rice, Noodles



Nick Smith
ニック・スミスくん



My favorite foods here were
Chinese cold noodles, Eel,
and home-made Sushi.



Scout Parsch
スカウト・パーシュさん



I really liked Udon and Soumen.
Tamago gohan was really good, too.
I also really like Matcha and
all the Matcha-flavored sweets.



Cara Mitrano
ケラ・ミットラノさん



質問

Q1: このプログラムに参加する前、日本についてどのような印象を持っていましたか？その印象は滞在して変わりましたか？

Q2: 日本で最も良かった経験は？

Q3: 日本の生活で、慣れるのが難しかったことは？

Q4: 食べられなかった日本食はありますか？

★ニックくん

A1: 正直に言うと、こちらに来る前には、あまり考えていませんでした。日本についての印象は、とても小さな国で、暑くて、自動車産業が発達した国、というものでした。でも、違っていました！それ以上でした。日本はとても美しく、人々は素晴らしい、食べ物もとてもおいしかったです！

A2: 京都ツアー！自分は観光が好きで、京都は本当に素晴らしいです。

A3: 時差ボケと食べ物と暑さです。

A4: スイーツ：アメリカのものより苦みがあります。

お茶：好きにはなれませんでした。どうして、みなさん好きなのでしょう。



★スカウトさん

A1: このプログラムに参加する前は、日本は、学校が非常に厳しく、またハイテクな国だと思っていました。確かに日本を見て、日本の人たちの素敵さや整った街並みを知りました。アメリカとはかなり違います。

A2: 一番良かったことは、京都の寺社へ行ったことです。とても美しく、アメリカでは見ることができないものです。

A3: ゆっくりしゃべるのが大変でした。もとが早口な方なので、流ちょうな英語を話す人と会った後は、そのことをすぐに忘れてしまい、また早口に戻ってしまいました。

A4: 日本食は、どれもとてもおいしかったです。どんなものでも一度は食べてみました。でも正直に言うと、納豆だけは楽しめませんでした。

★ケラさん

A1: 日本人は非常に礼儀正しく親切だと聞いていました。また、食べ物は変わったものばかりという印象を持っていました。滞在してみて、素敵な人たちばかりにお会いしました。ホストファミリーの方たちは、私が楽しんでいるか、不快な思いをしていないか、いつも気にかけてくれていました。食べ物は、まだちょっとヘンだと思うものもありますが、すべてトライしてほとんどのものがとてもおいしいことがわかりました。

A2: 毎日たくさん楽しいことを経験したので、一つを選ぶのは難しそうです。でも好きだったのは、日本の歴史や習慣、そして人々を知ることでした。明治村、白川郷、飛騨高山、京都のお寺などを訪れて、日本とその歴史について、たくさん学びました。

A3: 日本での生活にはほとんどすぐに慣れることができました。ただ一つ、若干難しかったことは食べ物ですが、いろいろ試してみて、結局それほど大きな問題ではありませんでした。日本式のお風呂の入り方や、「いただきます」、「ごちそうさまでした」、「ただいま」、「おかえり」など、日本の人たちが使う言葉が、とても気に入りました。

A4: 納豆は、まあまあ大丈夫でした。お寿司は、最初はダメでしたが、食べてみて本当においしいことがわかりました。



ホストファミリーの感想

1週間ずつホストを引き受けてくださったご家族に感想を伺いました。



「また会いたいね」

スカウトさんのホスト 榊原 志保

「うわ、とってもかわいい」メールに添付されたスカウトさんの写真を見た家族全員の反応でした。

実際の彼女はイメージ通りのとても明るく素直な女の子でした。何事にも積極的に出される食事は何でも完食してくれるし、なにか提案すると「やってみる」と挑戦してくれて、おかげで一週間こちらはだいぶ楽をさせてもらいました。小学2年と2才の息子達で毎日騒がしくてんやわんやの日々でしたが、それでも彼女は嫌な顔一つせず、リビングに来ちは息子達と遊んでくれて本当によきお姉さんになってくれました。

すっかり懐いた末っ子は、一週間が過ぎ彼女が次の家庭に移ってしまってからも、いつものように帰って来てくれると思っていて、よく「スカウトさんはいつ帰ってくるの」と尋ねてきました。それだけ彼女がいることが我が家の一日常生活になっていました。

「また会いたいね」と家族みんなで彼女のことを懐かしがっています。



「学校で習った文章と単語で」

スカウトさんのホスト 和田 美歩

今回ホームステイを受け入れるのは2回目ですが、家族全員が英語をしゃべれないで、不安がたくさんありました。それでも、中3と中1の娘たちが学校で習った文章と単語で、なんとか会話をすることができました。

カレーの準備をしていた時、辛いものが苦手なことが分かり、急きょパスタグラタンにしたところ、自分の家の料理と似ていたようで安心したようです。私も食べに行った料理ではなく、自分の作った料理を喜んでくれてうれしかったです。

見た目が大人っぽく、どこへ連れて行ったらよいか悩みましたが、日本の子と変わらず、コスメ、アクセサリー、お菓子などの買い物を楽しみました。常滑にも行き、招き猫をお土産に買っていました。

1週間という短い期間でしたが、彼女も私たちも貴重な経験ができました。全部が成功したとは思いませんが、良い思い出になりました。また機会がありましたら、ホームステイを受け入れたいと思います。



「今度はアメリカで会おうね」

ケラさんのホスト 白川 奈津子

我が家は初めてのホストファミリーの受け入れでした。やはり言葉の壁を感じました。特に日本語や習慣、歴史を質問されると、答えてあげたいのにうまく答えられなくて残念でした。

でも言葉が通じなくともお互いが仲良くなりたいと思えば、楽しい時間を過ごせる事が家族全員わかった気がします。ゲームをしたり、お料理をしたり、買い物に行ったり、1週間という短い期間でしたが、たくさんの思い出ができました。

今回のホストファミリーで、子供はがんばって留学したいと言いはじめました。Caraと「今度はアメリカで会おうね」と約束しています。将来この約束が実現できたらいいなと思います。



「卵かけご飯がお気に入り」

ケラさんのホスト 齋藤 豊

私たち家族が受け入れた交換生徒は、Caraという子でした。彼女はすごく頭のよい子で、アメリカ人と思えないほど(偏見?)周りの空気の読める子でした。将来は医者になって東日本大震災のような被災地で活躍したいということです。厳格な両親に育てられたようで、アメリカ人なのにハンバーガーを食べたことがないそうです! 今回のホームステイでは、進んで色々な経験をしようと努力していて、食べ物では“卵かけご飯”を気に入ったみたいで、帰国後も両親に勧めているようです。日本に来て、彼女の世界が広がったとしたらすごく喜ばしいことです。

同じように、うちの子どもたちも彼女と触れ合い、少しは世界が広がったのではないかと思います。年長の息子は感化され易く、友達とかに『センキュー』とか『シーキュー』とか言っています。小6のお姉ちゃんはまだまだ会話をする程ではないとしても、再来年も受け入れて少しは話せるようになれればいいなと思っています。機会があったら、アメリカにCaraを訪ねたいと思います。



「アナログ対デジタルの会話」

ニックくんのホスト 新美 千鶴子

英語がペラペラと話せないのにホストを受けてしまい、どうしようと不安を抱いている私達の家にニックはついにやって来ました。

特に聞き取りが苦手な私。英会話がスムーズにできないのは既に想定済みでした。でも、一つだけ貫こうと決めていたことがありました。それは分かった振りをしないこと。相手の言っていることが聞き取れなかったり、意味が分からなかったりした時は、もう一度尋ねたり、綴りを紙に書いてもらったりして必ず納得のいくまであきらめないように努めました。

高校時代に使用した古き昔の辞書をペラペラとめくる私と、翻訳ソフトで自在にパソコンを操るニック。二人の会話の道具がアナログ対デジタルだったのは笑えました。しかし、

その甲斐あって、ニックの家族やミシガン州については勿論、本人の得意なディベイトやラクロス、将来の夢や学校教育等についても会話をすることができました。

英語はペラペラとできないけれど、辞書ならペラペラとめくれる。会話の上で大切なことは相手を理解しようとする行動だと気づかされました。今回の良き経験に英語力をプラスして、またチャレンジしたいと思いました。たくさん思い出をありがとうございました。



「良きお兄ちゃん」

ニックくんのホスト 蟻川 総子

ダイニングの壁に書かれたニックのサインを見ても、この夏の賑やかでアメリカンな思い出に話が弾みます。

我が家は夫婦共働きで小1と年少の娘2人。初めての受け入れに期待と不安でいっぱいでした。ニックは大変フレンドリーな少年で、私達のカタコト英語を一生懸命理解してくれました。ミッドランドや家族の事などたくさん話してくれたし、得意料理も披露してくれました。そして何より娘達にとって本当に良きお兄ちゃんになってくれました。毎晩ボードゲームで盛り上がり、手品やモノマネなどで楽しませてくれました。いつのまにか娘達にとっては言葉の壁はなくなっていたような気がします。

我が家は日常生活そのものに加わってもらった8日間でしたが、お互いの生活習慣や文化の違いに驚いたり感心したり、大変充実した毎日でした。かけがえのない思い出をくれたニック、そしてこのような機会を用意しサポート頂いた関係者の皆様に心から感謝いたします。



「礼儀正しいニック君」

ニックくんのホスト 竹本 淳一

我が家では、これまでホームステイというより1日か2日外国の若者を預かったことはあります。1週間の公式ホームステイは初めてでした。自分も、妻も外国でのホームステイ経験があるので、今回はそのお返しの気持ちで受け入れることにしました。しかし、夫婦二人だけの家庭に、突然高校生の子どもが出来たみたいで、最初はどんな話をしたらよいか戸惑いもありました。

でも3週目ともなると、ニック君も疲れが出てきたようであり、特にこの週からの猛暑に参っていたようなので十分リラックスしてもらうことにしました。助っ人の女子高校生3人がやって来た時は、ニック君も大はしゃぎで、やはり同年代の相手がいることが大事なのだと、改めて感じました。

ニック君は礼儀正しく、アメリカ人らしくなく(?)自己主張も強くなく、日本文化を素直に受け入れようとしていました。今回の半田訪問で、酷暑にもかかわらず、日本の良い印象を持って帰ってくれたらと願っています。



スカウトさんホストの榎原ファミリー、ケラさんホストの竹内ファミリーの感想は、半田市報10/1号に掲載しています。



フーナン王国から青少年来半!

2005年「愛・地球博」において、半田市のフレンドシップ相手国であったフーナン王国との交流は、2008年に発足した半田フーナン青少年交流協会が中心に活動を進めています。

今年は、7月8日から17日までの10日間、学生4人と引率の先生1人が来半し、市内にホームステイしました。



～日本への感想～

チョキ・ウォンモ

私は、訪れた地で出会った人々や場所から多くのことを学びました。常に相手を敬い、健康であり、健全な家族、先生と生徒の間の密接な関係、そして、英語を学ぶにあたっての彼らの不屈の精神などです。私はきっと彼らとは素敵なかつて思いました。



▲右側から、チョキ・ウォンモさん、
ウゲン・ソナム・チョデンさん、
成岩中学校 高橋篤校長先生、
ウゲン・ティンレイ先生、
レキ・ツェリンくん、
ウゲン・ツェリンくん

ウゲン・ソナム・チョデン

十日間弱の旅において、日本の多くの人々が私達の誇る国民総幸福量について強い関心を持っていることを知りました。また、ケンダマ、ヨーヨーといった日本の伝統的な遊びも教わりました。最も印象的のは、全ての日本人が非常に心優しく、友好的であったことでした。

レキ・ツェリン

日本は先進国であり、人口の多い国であると思います。しかしながら、公共の場は非常に綺麗になっており、また日常の生活も非常に整然としていました。日本とブータンは、似ているところが多いかと思います。幸福を追い求めており、また平穏な生活を愛している国という点です。日本人の皆さんには、ブータン人に対して敬意をもって接してくれました。

ウゲン・ツェリン

私は滞在している間、日本の文化や伝統について学びました。とりわけ、広島での原爆ドームを訪れた時の、荒廃した光景を見たことは非常に興味深かったです。なんの罪もない命が、他の事柄を優先するあまりにないがしろにされたことは、非常に悲しいことだと感じました。

添乗教師 ウゲン・ティンレイ

私達の滞在は短いものでしたが、日本人が行なっていて、しかし私達がしていないような慣習など沢山経験をしました。毎日毎日が新しく、私達は今まで経験したことがない事柄を体験する機会を頂きました。博物館から学校にいたるまで、訪れる場所で、日本人というものは非常に親しみやすく、勤勉で、尊敬でき、世界の人々や私達の指標となる人達だと感じました。労働環境についても非常に働きやすく、衛生的で素晴らしいです。最も文明として成熟しており、世界中の範たる存在と言っても過言ではないのではないかと思います。年配の方々への敬意や、若い者達への愛情や指導、ゴミをきちんと処理すること、市民感覚、食事時のマナーなど、日本人の血に深く根付いた様々な事柄は、誇るべき宝です。今までに出会った方々の中でも、日本人は最も素晴らしい類稀なる素晴らしいしさを持っています。もしまだ機会が与えられるならば、私達は、何度も何度も日本を訪れたいです。私達は沢山の忘がたい思い出を作りました。こういった日本に来る機会を得る人達が、日本での滞在を満喫し、また日本人の日本人たる慣習に触れ、日本人に親愛なる情が生まれることを願ってやみません。



半田国際交流協会にご入会ください!



年会費 個人会員	2,000円
団体会員	10,000円
法人会員(1口 5,000円)	

- ・従業員数 1名～29名 1口以上
- ・従業員数 30名～49名 2口以上
- ・従業員数 50名～ 4口以上

申込先: 半田国際交流協会(雁宿ホール内1階)
TEL: 0569-26-1929 FAX: 0569-26-1992
E-mail: hia@poplar.ocn.ne.jp
HP: <http://www.handakokusai.aichi.jp>

講演「幸せの国フーナン」

主催: (社)人間性復活運動本部 半田支所

講 師: 松石 奉之

(半田国際交流協会会長・半田ブータン青少年交流協会参与)

日 時: 平成25年9月29日(日) 開場13:00

開演 13:30～15:15

会 場: クラシティ半田 ホール

参加費: 300円

問合せ先:

人間性復活運動本部
TEL: 0569-24-3753

